

1952年 林義一投手(大映)ノーヒッターウイニングボール

前回に続き、当博物館で新たに収集した資料をご紹介します。

この4月、大映スターズ、阪急ブレーブスで活躍した林義一投手のご遺族より、同投手が達成したパ・リーグ史上初のノーヒットノーランのウイニングボールと記念品をご寄贈いただきました。

林投手は徳島商から明治大に進み、社会人を経て1949年に大映スターズに入団。戦争をはさんでおり、29歳でのプロ入りでした。

52年4月27日、高崎城南球場での大映対阪急のダブルヘッダー第1試合に林投手が先発しました。翌日の報知新聞は、「例のサイドから軟球でカーブとシンカーをまぜ、しかもコーナーワークがよく阪急打者はこれに幻惑され、打球は野手の正面をついて無安打に退けられ」と、林投手の好投を報じています。ただ、6回一死後、阪急の8番天保義夫投手に対し、フルカウ

トから投じたシンカーが外角低めに外れ四球となり、走者を許しましたが、この四球のみに阪急打線を抑え、パ・リーグ初のノーヒットノーランを達成しました(大映2-0阪急)。奪三振は2、テンポよく打たせて取った結果、試合時間は1時間10分と記録的な短時間試合となりました。

このウイニングボールは、リーグから贈呈されたベナント型の記念品、NPBよりご提供いただいた公式スコアシート(複製)とともに、プロ野球の歴史コーナーにて展示中です。ぜひご覧ください。

公益財団法人 野球殿堂博物館
学芸員 関口貴広

